

平成22年度事業報告

平成22年度は、前年度に行われた各部事業の見直しをもとに、意欲的な事業展開が行われた。出版部による「医療ソーシャルワーク58号」が新たな装丁と対象者拡大が図られ、広範囲の医療・福祉・教育関係者への広報に着手することに取り組んだ。教育制度への検討が教育部と「研修プログラム委員会」により行われ、あらたな内容、講座での研修が進められた。社会問題への取り組みは、昨年引き続き「病院の種類による機能の違い」を現場のMSWが語る第2弾が開催され好評を博した。また年末の生活困窮者、路上生活者への相談援助事業に協力した。また、専門小委員会による調査や結果の還元など、会員と都民に役立つ取り組みも引き続き行われた。巡回医療福祉相談会、各地域独自相談会ともに、連携機関、同時開催など多彩な場とたちでの開催により、医療ソーシャルワーカーの社会的認知も広がっている。「医療と福祉の110番」は新たな実行委員の参加により、巣鴨地蔵通りでの広報活動など意欲的な取り組みが行われた。世相を反映して相談件数はのびなかったが、今後の相談活動の展開が期待される感想が多かった。

法人移行について、特別委員会を開催し、移行のスケジュールを検討し、3月の決算総会時に会員に提起、会計上の準備を進めた。また公益事業についての検討・調査を行った。

3月11日に発生した東日本大震災により、翌日に予定していた講演会、また今年度最後の巡回相談会が延期・中止となった。物品の大量落下や事務局員の帰宅困難などの被害もあったが、3月14日より協会事務所にて、相談受入れ等態勢を整え、ホームページへのお知らせ掲載や支援の呼びかけなど、素早い機動力のある対応を行うことが出来た。こうしたお知らせや、震災に伴う通達など、ホームページの充実により、迅速に必要な応じることが出来た。また求人、イベント情報など、タイムリーに対応が出来た。

全国医療ソーシャルワーカー協会会長会、日本医療社会事業協会(公益社団 日本社会福祉協会)と連携し、避難者受入れ調整、現地へのボランティアなどを呼びかけ参加された会員も少なくなかった。予算総会時会員に諮り、東京都に対し被災者および家族への支援と当会の支援活動についての配慮を要望することにした。その他、東京都医療従事者ネットワーク連絡会を通じ、看護フェスタ、講演会、法人移行への情報交換、震災支援などについての協力・参加・支援を行った。

I. 管理運営報告

公益法人としての使命・役割を踏まえ、協会組織の整備・強化に努め、定款に定められた各事業の運営を図り、協会活動の充実と活性化を目指した。

1. 公益法人の要件整備に努めた。

- * 公益法人の最高意志決定機関である社員総会への出席会員の増員に努め、年2回の総会を開催した。
- * 協会事務所の事務局体制を週4日の常勤体制とした。
- * 公益法人の原資である会費は、納入促進を図り財源確保に努めた。未収金については、事務局・ブロックを通じて働きかけを行った結果、若干改善された。
- * 公益法人移行問題は理事会で論議を重ね、医療関連団体とも懇談会の都度意見交換を行い情報収集に努めた。また税理士・監事を含めた「特別委員会」を組織し、委員会を2回開催した。
- * 自主事業の拡充ならびに充実を図った。

2. 公益性の高い公益事業「自主事業」の継続に努めた。

- * 広く都民に対して公開講座を開催した。
- * 江戸川区での「医療福祉相談会」を2回開催した。
- * 西東京市での「医療福祉相談会」を開催した。
- * 葛飾区での「医療福祉相談会」を2回開催した。
- * 清瀬市での「医療福祉相談会」を開催した。
- * 江戸川区神経難病相談会を開催した。
- * 地域医療福祉相談活動企画運営委員会として相談会を開催した。
- * 江戸川区医療福祉連絡会を2回開催した。
- * 江戸川区介護保険シンポジウムを開催した。
- * 江戸川区医療と介護の連絡会議を開催した。
- * 江戸川区介護事業者向け医療研修への講師派遣をした。

3. 医療福祉関連他団体との連携を図り社会活動の推進に努めた。

- * 東京都難病相談・支援センター主催の「難病無料医療相談会」に5回参加協力し、難病を抱える相談者に対し援助を行った。
- * 社団法人東京都看護協会主催（東京都・東京都医師会他医療関連12団体共催）の「看護フェスタ」に相談コーナーを開設した。

4. ブロック代表世話人会と地域医療福祉相談活動企画運営委員会を支援し、活動の強化に努め開催した。

5. その他

- * 相談会活動時に医療従事者及び来談者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。
- * 北区から「介護認定審査会」、また江戸川区より「障害認定審査会」「介

護保険事業計画等改定検討委員会」「地域密着型サービス運営委員会」の委員推薦依頼を受け、それぞれ委員を派遣した。

6. 広報活動

- * ホームページを活用し、広く協会活動の広報に役立てた。
- * 会員向けに「東京MSW」ニュースを5回発行し、内容の濃い企画、編集を行った。
- * 会員に限らず広く社会に向けた内容の「医療ソーシャルワーク」を発行した。

7. 次の事業について受託契約し、事業が円滑に遂行されるように努めた。

- * 地域巡回医療福祉相談事業・電話相談（医療と福祉110番）（東京都）
- * 医療社会事業従事者講習会、新人研修特別講座、「グループスーパービジョン（4講座）」（東京都）

8. 求人求職についてホームページに随時情報を掲載した。

9. 会員の入退会状況を速やかに把握するように努め、ブロック代表世話人会を通じブロックに情報を提供した。

10. 会員の異動状況(平成22年度)

	正会員	準会員	賛助会員	合計
入会者数	81	20	8	109
退会者数	67	33	6	106
現会員数	733	138	15	886

表 1. ブロック活動状況

第1ブロック		第2ブロック	
4/27	世話人会	4/15	世話人会
		5/14	世話人会 ブロックニュース発行
		5/26	情報交換会
6/9	世話人会 ブロックニュース発行	6/17	世話人会 ブロックニュース発行
		6/28	診療報酬改定勉強会①
7/21	情報交換会	7/21	世話人会
		8/12	世話人会 ブロックニュース発行
9/8	世話人会 ブロックニュース発行	9/28	診療報酬勉強会②
10/28	救世軍自省館の見学（勉強会含む）	10/21	世話人会 ブロックニュース発行
11/6	地域巡回医療福祉相談会	11/11	八王子市主催 介護の日相談会
12/2	世話人会 ブロックニュース発行	12/1	世話人会
1/26	情報交換会		
2/2	世話人会 ブロックニュース発行	2/1	世話人会 ブロックニュース発行
3/2	勉強会「イギリスのソーシャルワーク の実際と緩和ケア」 武蔵野中央病院 日野礼子様	3/27	2ブロック地域巡回相談会の中止
世話人・運営委員	◎ 平井隼人（西東京総合中央病院） ▲ 遠藤紗希子（南台病院） ▲ 宇野彩子 （小平リハビリテーション病院） 菅原美保子（東京病院） 関 千尋（多摩あおば病院） 野村真悠子（救世軍清瀬病院） 三上彩夏（武蔵村山病院） 石井均（老健たけおか）	世話人・運営委員	◎ 鳴海 綾子（八王子山王病院） ▲ 武井 純一 鈴木 望（日の出が丘病院） 長島 陽子（立川相互病院） 高橋 茂治（陵北病院） 山口 広作（城山病院） 山崎 まどか（清智会記念病院） 柴田 愛（上川病院） 三上 佳世（公立福生病院）

（ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員）

表2. ブロック活動状況

第3ブロック		第4ブロック	
4/6	世話人会	4/16	世話人会
4/27	世話人会	5/23	地域巡回医療福祉相談会 (みなと健康まつり)
5/	ブロックニュース発行		
6/ 8	世話人会		ブロック通信 6月号
6/18	情報交換会 各機関の最新情報の共有等を図る		
6/	ブロックニュース発行	7/9	ブロック会 「資生堂ライフクオリティビューティセンターの活動について」
7/6	世話人会		
7/31	施設見学会 東京武蔵野病院にて「精神科と地域連携について」というテーマでの施設見学・病院説明、及び小グループでの交流学习会。	9/22	世話人会
9/ 7	世話人会		ブロック通信 10月号
9/	ブロックニュース発行	10/22	情報交換会
10/13	世話人会		
10/23	学習講演会 心身障害児総合医療療育センター療育研修所にて テーマ「発達障害の基礎的理解と関わり方」 講師:米山明(心身障害児総合医療療育センター外来療育部長・小児科医)		
11/9	世話人会	11/22	世話人会 ブロック通信 12月号
12/4	地域巡回医療福祉相談会 板橋区グリーンホール 「いたばし健康ネット博2010」の会場内にて	12/13	東京厚生年金病院緩和ケア病棟見学会
12/7	世話人会	2/8	世話人会 ブロック通信 2月号
12/	ブロックニュース発行	2/22	日本ライフ協会 「見守り家族制度について」
1/18	情報交換会 各機関の最新情報の共有等を図る	3/9	来年度への引継ぎ ブロック通信 3月号
2/8	世話人会	3/31	総会の議事運営、交流会
2/15	世話人会		
3/ 8	世話人会		
世話人・運営委員	◎ 島村 勝 (心身障害児総合医療療育センター) ▲ 山森 道代(老健 赤塚園) 鎌田 由佳(竹川病院) ▲ 駒ヶ嶺さゆみ(板橋区医師会病院) 山田 徹(赤羽中央総合病院) 江口 朋美 (順天堂大学附属練馬病院) 小笠原奈緒(博栄会本部)	世話人・運営委員	◎加藤 三紀子(三楽病院) 川田 菜保子(虎の門病院) 小林 千智(芝病院) 荒井 有希子(順天堂医院) ▲唐木 香子(ヒロクリニック) ▲飛田 明子(東京女子医大病院) ▲井上 忠司(東京厚生年金病院) ▲四十物 貴子 (東京都保健医療情報センター)

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員)

表3. ブロック活動状況

第5ブロック		第6ブロック	
5/11	世話人会	4/28	世話人会
5/21	ブロック会 「交流会・名刺交換会」	5/27	世話人会
6/15	世話人会	6/24	世話人会 ブロックニュース発行
6/	ブロックニュース発行	7/9	情報交換会：東京共済病院講堂
7/21	世話人会	7/29	世話人会 ブロックニュース発行
8/11	世話人会	8/14	地域巡回相談会 代々木公園
8/	ブロックニュース発行		
9/11	地域巡回医療福祉相談会	9/9	世話人会
9/29	世話人会		
10/14	ブロック会 「順天堂東京江東高齢者医療センター見学」	10/7	世話人会 ブロックニュース発行
10	ブロックニュース発行	11/25	学習会「生活保護制度を学んで賢く 利用できるSWになろう」 昭和大学病院会議室
10/28	世話人会		
11/17	世話人会	12/9	世話人会 ブロックニュース発行
11/26	ブロック会 「介護支援連携指導についての勉強会」 講師：高橋澄穂氏（森山記念病院）	1/13	世話人会
12/13	世話人会	2/1	見学会「見てみよう感じてみよう 東京山谷地域見学会」
12/	ブロックニュース発行	2/1	世話人会・情報交換会 ブロックニュース発行
1/14	世話人会	3/17	学習会「いまさら聞けない 生活保護制度のあれこれ」 東京共済病院
1/21	ブロック会「新年情報交換会」		
2/21	世話人会	3/18	世話人会 ブロックニュース発行
3/	ブロックニュース発行		
3/18	ブロック会 ※震災のため延期		
世話人・運営委員	◎ 仲谷 恵美子（第一病院） 塩路 直子 （順天堂東京江東高齢者医療センター） 稲村 豪 （市川市リハビリテーション病院） 西原 大助 （東京都リハビリテーション病院） 藤井 かおる（京葉病院） 笹本千壽子（東京東病院） 杵澤 郁子（西新井病院）	世話人・運営委員	◎ 渋谷 直道（大田病院） 湊 由美子（東京労災病院） 谷内 智男（荻窪病院） 久保谷 ゆかり（雙立病院） 田玉 由希子（成城リハビリセンター） 佐藤 彩子 （上町あんしんすこやかセンター） 竹内 香織（昭和大学病院） 中丸 恵里子（東京共済病院）

（ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員）

表4. ブロック活動状況

第7ブロック	
6/2	世話人会
6/12	ブロックニュース発行
6/28	世話人会
7/7	名刺交換会
8/9	世話人会
8/16	世話人会
9月	ブロックニュース発行
10/5	見学会&勉強会 「366リハビリテーション病院見学会&障害者の就労支援について」 講師：清水まゆみ先生（府中公共職業安定所）
10/17	地域巡回相談会 府中福祉まつりにて
11/5	世話人会
12/16	世話人会
1/	ブロックニュース発行
2/7	世話人会
2/15	有料ホーム見学会① ナースィングホームひまわり 国分寺 未来倶楽部 国分寺
2/23	有料ホーム見学会② 同上の施設を訪問
3/9	ブロックニュース発行
3/24	勉強会&見学会 アニマルセラピー&アロマセラピー勉強会 桜町病院ホスピス見学会 →震災の為延期
	◎ 大山 美奈子（小金井太陽病院） 太田 孝夫（老健ウイング） 麻生 欣吾（多摩丘陵病院） 押見 もえ子（榊原記念病院） 田山 豪（老健三鷹リハケアセンター） 小野 由布子（武蔵野赤十字病院） 千葉 優喜子（桜町病院） 加藤 淳（南町田病院）

（ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員）

II. 各事業報告

【定款第1号事業】

1) 医療ソーシャルワークの普及及び向上に寄与する事業

1. 地域巡回医療福祉相談

地域巡回医療福祉相談は、各ブロックの運営委員会を中心に実行委員会を組織し、多くの会員の協力のもとに年6回の相談会を実施した。(当初、相談会は7回を予定していたが、うち1回は3月に開催予定であったが、東日本大震災の影響に伴う市民祭りの中止により開催困難となったことから相談会中止となった為、年6回の開催となっている。)

日程	開催場所	相談件数	特別企画	企画参加者
5月23日(日)	芝公園	3	区民祭り参加	
8月14日(土)	代々木公園	4		
9月11日(土)	シルバープラザ梅若	11		
10月16日(土)	府中公園	3	市民祭り参加	
11月6日(土)	小平市東部市民センター	6		
12月4日(土)	板橋区立グリーンホール	12	健康ネット博参加	

2. 電話相談(医療と福祉110番)

平成22年11月22日～11月23日までの1週間、常設の電話相談を実施した。件数については、下記表中に含まれる。

地域巡回医療福祉相談と電話相談の相談内容と件数

	面接	電話	文書	計
病気から派生した本人家族の社会生活上の問題	10	1	0	11
病気又は治療の障害となっている心理的不安等の精神的問題	5	1	0	6
病気又は問題の要因となっている患者の家族関係やその他の対人関係の調整	0	0	0	0
治療費や生活費等の経済的問題に対する各種制度の利用斡旋	6	4	0	10
医療施設や社会福祉施設の利用をめぐる問題	9	5	0	14
看護や療養・生活指導を巡る問題	5	0	0	5
退院後の社会生活への復帰を巡る問題	0	0	0	0
その他医療福祉に関する相談	10	1	0	11
合計	45	12	0	57

3. 難病検診への参加協力【受託事業】

(1) 難病無料医療相談会について

都から委託を受け難病相談・支援センターが実施する難病無料医療相談会は、平成22年度から年間8回から5回に変更(削減)された。理由は、各患者団体が個別に講演会や相談会を開催するなど、相談の機会他にも設けられていることから、平成22年以降は毎年5

回実施して行くことになった。

平成22年度の相談会の内容は、例年通り個別に専門医に相談ができる機会を提供した。毎回3名の専門医が参加し利用希望者は予約制となっている。定員の目安は20名前後を目安に、難病相談・支援センターが決めて受け付けている。1名20分と事前に時間が決められた範囲で専門医が直接に患者や家族から個々の疾患から生じる様々な問題に対して相談を受け対応した。

(2) ソーシャルワーカーの役割について

平成22年度も東京都医療社会事業協会では、難病無料医療相談会に毎回3名（5回の内2回は2名）のソーシャルワーカーを派遣し、専門医との面接前の相談を担当した。MSWの役割は、医師面接の前に来所者の相談内容を確認し、20分という限られた医師との面接を有効に使えるようにお手伝いをしている。相談の内容によっては、MSWが個別に相談にも応じた。

(3) 東京都難病相談・支援センターについて

東京都難病相談・支援センターは、難病患者さんの日常生活における相談を受け支援すること。また地域交流や活動を行う拠点として、患者さんの療養を支援するために設けられた施設。運営は、都から東京都難病団体連絡協議会（患者団体）が事業を委託されている。

事務所が平成22年1月に大塚から広尾へ拠点を移し活動を継続している。

- ① 日時 : 平成22年5月23日（日）11:00～16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター（渋谷区広尾5-7-1）
対象疾患 : 整形外科系難病
協力MSW : 杉町 香（杏林大学病院）根本 圭子（杏林大学病院）
井上 孝義（信愛病院） 計3名参加
来談者 : 19名
- ② 日時 : 平成22年7月25日（日）11:00～16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター（渋谷区広尾5-7-1）
対象疾患 : 神経系難病
協力MSW : 安仁屋 衣子（厚生中央病院）
高橋 智哉（浴風会病院）井上 孝義（信愛病院） 計3名参加
来談者 : 31名
- ③ 日時 : 平成22年9月26日（日）11:00～16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター（渋谷区広尾5-7-1）
対象疾患 : 膠原病
協力MSW : 竹野 恵（順天堂医院）井上 孝義（信愛病院） 計2名参加
来談者 : 24名
- ④ 日時 : 平成22年10月24日（日）11:00～16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター（渋谷区広尾5-7-1）
対象疾患 : 肝臓病
協力MSW : 小野 賢一（東京女子医科大学病院）
余田 真希（東京女子医科大学病院）井上 孝義（信愛病院）
計3名参加
来談者 : 19名

- ⑤ 日時 : 平成22年12月19日(日) 11:00~16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター(渋谷区広尾5-7-1)
対象疾患 : 視覚系難病
協力MSW : 千葉 優喜子(桜町病院) 井上 孝義(信愛病院) 計2名参加
来談者 : 18名

4. 公開講座【自主事業】

平成23年3月5日(土)品川総合区民会館「きゅりあん」にて、「病院ってどんなところ2」～精神科(認知症を含めて)の病院を良く知ろう～と題して、都民向け公開講座を開催した。一般病院とは異なる入院形態や受診方法や救急受診のあり方などについて、認知症や一般精神を担当するMSWより説明を行った。また精神科的治療が終了後の療養先として認知症を対象とした療養病棟について担当するMSWより説明を行った。日頃なかなか接する機会の少ない精神科の情報を得たいという方が多く、近隣区のケアマネジャーさんを中心に96名の参加があった。参加者からは精神科の現状を理解するために大変役立ったと好評を頂いた。

◎パネリスト 塩路直子(順天堂東京江東高齢者医療センター)

津川晴奈(上川病院)

川合聡(東京武蔵野病院)

◎協力員 石井奈奈子(森山記念病院)

森山美穂(竹川病院)

5. 江戸川区医療福祉相談会【自主事業】

平成22年6月27日(日)江戸川区医師会館にて

平成22年10月31日(日)江戸川区葛西健康サポートセンターにて

協会独自事業として江戸川区及び江戸川区医師会の後援、協力のもと相談会活動を行なった。この相談会活動を通じて、MSWと行政、医療機関、地域福祉活動との有効な連携活動がとれている。相談件数はそれぞれ26件、24件であった。

また、平成22年11月13日(土)江戸川区タワーホール船堀にて介護フェアが行なわれ、独自医療福祉相談会のブースを出し、MSWが医療福祉相談を行なった。相談件数は1件であった。

6. 西東京市医療福祉相談会【自主事業】

平成21年度に新人ケアマネジャー向けに行なった「地域の病院の機能を確認しよう」を、主任ケアマネジャーからの「広くケアマネジャー全体に行って欲しい」という要望に応え、平成22年11月24日に、MSW10名で田無総合福祉センターにて開催した。主任ケアマネジャーや高齢者支援課と何度も話し合いを持ち、制度の変更点を中心に修正したもので行った。参加は地域で業務を担っているケアマネジャー77名に加え、市役所の職員2名を合わせた計79名となり、大変有意義な相談会となった。

7. 葛飾区医療福祉相談会【自主事業】

平成22年12月5日(日)、ウエルピア葛飾(地域福祉センター)にて開催された葛飾区主催の「第6回ウエルピアまつり」「第22回ボランティアまつり」へ参加し独自相談会を行

った。9件の相談があった。

また、平成23年3月5日（土）、6日（日）葛飾区男女平等推進センターにて開催された葛飾区主催の「パルフェスタ2011」へ参加し独自相談会を行った。両日で22件の相談があった。

8. 清瀬市医療福祉相談会（自主事業）

平成22年7月10日（土）に清瀬市野塩地域市民センターで相談会を開催した。病院から出て、地域のニーズを把握しようと始めた相談会も4回目を迎える事ができた。清瀬市・清瀬市社会福祉協議会・清瀬市医師会の後援を得て、当日は医師・地域包括の職員・社会福祉協議会職員の参加をいただいた。相談件数は3件あった。今後も他職種と連携をとりながら、地域住民のための相談会を継続していきたい。平成23年度は7月に開催予定である。

9. 江戸川区神経難病相談会【自主事業】

江戸川区、江戸川区医師会主催（社）東京進行性筋萎縮症協会後援にて開催される、江戸川区神経難病検診開催にあたり、当協会に相談員参加協力の依頼があり、平成22年10月3日（日）江戸川区医師会館にMSW2名を派遣した。医師、保健師等と医療福祉相談を行うとともに、難病患者団体の方々と連携をとった。相談件数は8件であった。

協力MSW：福野 功治（同愛会病院）

協力MSW：狩野 千壽子（東京東病院）

10. 地域医療福祉相談活動企画運営委員会【自主事業】

地域巡回医療福祉相談会運営委員と江戸川区、西東京市、葛飾区及び清瀬市の独自相談会実行委員を構成メンバーとして、今後の相談会活動の企画と現在の相談会の運営を考えるべく総務部と共催にて上記企画運営委員会を2か月に1回の頻度で開催した。

広く都民の方々のためになるように、相談会開催の方法について様々な工夫を凝らした企画が提示され、祭り参加型や独自型（講演会及び個別相談会）を中心に、自由に参加しやすい形で相談会を開催した。

11. 江戸川区医療福祉連絡会【自主事業】

江戸川区介護保険課と江戸川区医療福祉相談会実行委員会との連携の中でMSWと行政、地域福祉機関との連絡会を定期的で開催しており、平成22年12月3日（金）と平成23年3月11日（金）の2回、江戸川区周辺の当協会会員の医療機関のMSWが参加し、地域包括支援センター職員などと話し合いの場を持った。

12. 江戸川区介護保険シンポジウム【自主事業】

平成22年11月13日（土）江戸川区タワーホール船堀にて 江戸川区、介護フェア実行委員会の主催にて、「医療と介護の連携」をテーマに、模擬カンファレンス（ネットワーキング）「病院から在宅に向けて医療と介護により利用者の生活を支える」と分科会を開催した。江戸川区医療福祉相談会実行委員会のメンバーは、運営、司会、運行、助言者として協力した。地域の介護保険関係者100名前後の方々が参加された。

13. 江戸川区医療と介護の連携会議【自主事業】

平成23年1月20日（木）江戸川区グリーンパレスにて
江戸川区介護保険課主催にて、医療と介護の関係者が集まり、連携を考える会議を行い、江戸川区医療福祉相談会実行委員会のメンバーであるMSW2名が参加した。その場で江戸川区政に向けてMSWとして提言した。

14. 江戸川区介護事業者向け医療研修への講師派遣【自主事業】

平成23年2月15日（火）、2月22日（火）江戸川区グリーンパレスにて
江戸川区より委託を受けた、特定非営利活動法人江戸川区ケアマネージャー協会より、上記研修の講師依頼を受け、江戸川区医療福祉相談会実行委員会メンバーのMSW5名が参加し、講義を行った。この研修に向けての準備段階からプロジェクト委員として協力した。地域の介護保険関係者80名前後の方々が参加した。

15. コミック「いとしのタンバリン」取材協力

ビックコミックオリジナル増刊号のMSWコミック「いとしのタンバリン」の制作に向けて協会として、取材協力し、MSW業務の広報とソーシャルアクションの一環として支援した。

16. 江戸川区各種委員会への委員派遣【自主事業】

江戸川区より「障害認定審査会」、「介護保険事業計画等改定検討委員会」、「地域密着型サービス運営委員会」の委員推薦の依頼を受け、それぞれ委員を派遣した。
障害認定審査会 協力MSW：浅山 倫子（東京臨海病院）
介護保険事業計画等改定検討委員会 協力MSW：藤井 かおる（京葉病院）
地域密着型サービス運営委員会 協力MSW：藤井 かおる（京葉病院）

【定款第2号事業】

2) 会員の専門知識・技術の向上に関する事業

会員へ教育、研修の場を提供し、会員の資質の向上と、会員相互の交流の場を促進していくことに努めるという目標に向けて、各種の研修会および講座を開催した。

また、研修会においては更なる内容の向上、充実を目的として、担当理事は担当研修の運営に携わるだけでなく、他の研修会に参加してサーベイランスを行った。

1. 講座【自主事業】 ※講師 敬称略

平成22年度は3回の夜間講座を開催した。

第1回は7月28日に東京芸術劇場において「ソーシャルワーカーの専門性」講師：窪田 暁子（中部学院大学 名誉教授）を開催した。参加者からはソーシャルワーカーの業務とは本来どういったことなのかを改めて考えさせられた、ソーシャルワーカーの専門性とはどういったことなのかを深く考える貴重な機会となった、などの感想が多く寄せられた。課題としては、当日、会場の定員100名を超える受講希望者が来場したということで、もう少し大きい会場での開催も今後検討する必要があるのではないかとといったことが挙げられる。

第2回は11月19日に社会問題対策部との共催で東京芸術劇場において「チーム医療のためのコミュニケーション講座」－自分を生き生きと活かすためのコミュニケーションスキルアップ－講師：成井尚子（心理カウンセラー）を開催した。

第3回は平成23年4月23日に東京共済病院において「貧困を感じて考えて支援しよう～医療ソーシャルワーカーだからできること～」講師：川上昌子（聖隷クリストファー大学大学院 教授）を開催した。当初は3月12日に東京芸術劇場で開催する予定であったが、東日本大震災の影響により会場使用が困難となり、4月に延期せざるを得ない事態となった。

また、平成22年度は教育部単独開催の2回に関してはソーシャルワーカーの専門性という一つのテーマに沿った内容で開催した。一つのテーマに焦点を絞ることにより、そこに繋がりが生まれ、より深い理解となったのではないかと思われる。この結果を踏まえ、今年度も同様に一つのテーマに沿った内容で開催していきたい。

2. 研修会 ※講師 敬称略

(1) 新人研修【自主事業＋一部受託事業】

平成22年度も通年コースと集中コースの2つのコースを設定した。募集方法に関して、今年度は郵送での申込み形式をとったが特に大きな問題は起きなかった。

例年、応募の多い通年コースで募集定員（40名）を大きく上回ることが危惧されたが、昨年に引き続き若干の定員超えに止まったので、講師と相談の上、全員通年コースで受け付けることとなった（44名）。また、ここ数年と同様に集中コースは定員割れとなった。

通年コースは例年通り家庭クラブ会館を会場として利用し、集中コースは2日間とも厚生中央病院を利用した。厚生中央病院は交通の利便性が良く、かつ会場費が発生しなかったことでコスト削減に非常に役立った。通年コースの最終日（3月23日）は東日本大震災の影響による輪番停電の関係で開催が危惧されたが、無事開催された。

また、平成22年度も平成21年度に引き続き受講生に講義内容の振り返りとして毎回感想を提出してもらった。これにより受講生自身が立ち止まって考え、自分の理解度を把握することが出来たので、今年度の研修でも継続していきたい。

【講師】 藤平輝明（東京医科大学病院）
武山ゆかり（がんの子供を守る会）
高橋澄穂（森山記念病院）
小嶋章吾（国際医療福祉大学）
樋口昌彦（至誠会第二病院）
大沼扶美江（都立広尾病院）
高山俊雄（ひまわり診療所）

(2) グループスーパービジョン【受託事業】

①Aグループ

研修開始間際に急遽参加出来なくなった方が辞退され、9名での開始となったが、東京芸術劇場を主会場として利用し、一年間順調に開催することが出来た。

年に3回の半日研修もあり、同じメンバーと悩みや思いを共有できる機会となった、などメンバーとの絆を作れたという感想が多く聞かれ、充実した内容で開催できた。

【講師】 佐藤 俊一（淑徳大学）

②Bグループ

毎月1回、木曜日に東京芸術劇場で開催された。その時どういう「かかわり」を持ったか、あるいは持とうとしたかということに焦点を当てて事例検討が行われ、自分の傾向を見つめ直すとともにSWとしての価値や視点をメンバーと共有することができ、充実した研修となった。

【講師】 柏木 昭（聖学院大学大学院）

③Cグループ

平成22年度より新たな講師を迎え、アセスメントの基本的観点や技法をグループによる話し合いにより学ぶ貴重な機会となった。

【講師】 窪田 暁子（中部学院大学）

④Dグループ

平成22年度より新たな講師を迎え、ピア・スーパービジョンの考え方を採り入れた方法で毎月土曜日に家庭クラブで開催された。定員10名に対して12名の申込みがあり、講師と相談の上全員受け入れることにした。後半は、終了時間の延長や日にちの変更などがあったが概ね順調に開催することができ、メンバーからも、参画する意識を持って、実り多い時間を共有することができたと好評だった。

【講師】 堀越 由紀子（東海大学）

(3) スーパーバイザー養成講座【自主事業】

家庭クラブ会館を利用し平成22年度も滞りなく開催ができた。参加者からも毎回多くの気づきが得られたと好評だった。

【講師】 福山 和女（ルーテル学院大学）

(4) カウンセリング（心理的面接の進め方）連続講座【自主事業】

東京学院を主会場とし平成22年度も順調に開催できた。精神科領域だけでなく、他の様々な領域の業務の中でも役立てられる心理的な面接の進め方を学ぶことが出来て良かったという感想が多く聞かれ、充実した内容で開催できた。また、受講者20名の定員に満たなかったことが（受講者13名）課題として挙げられる。

【講師】 増井 起代子（東京逡信病院）

(5) MSWのための労災講座 連続講座【自主事業】

平成22年度からの新規事業で6月から10月にわたり、全5回開催され15名の受講生が参加した。毎回土曜日3時間の中で、講師による講義と受講生同士のグループ討議とで構成された参加型の講座とした。講師は、NPO 東京労働安全センターのスタッフを中心にMSW、医師、事務局長に依頼し、現場の実践に基づいた講義をいただけた。受講生は講座の最後に「振り返りシート」を記入して終了するスタイルだった。振り返りシートには、内容について大変好評で、初めて聞くことが多いといった記載が多く見られた。仕事と疾病の関係性を明らかにしていくことが生活相談を受けるMSWの専門性の大きな一つとして捉え、今後も講座を継続していく予定である。

- 【講師】 高山 俊雄（ひまわり診療所）
 平野 敏夫（ひまわり診療所）
 飯田 勝泰（東京労働安全衛生センター）
 齋藤 洋太郎（中皮腫・じん肺・アスベストセンター）

（6）MSWのための外国人講座 連続講座【自主事業】

家庭クラブ会館と東京労働安全センターを会場とし、今年度初めて開催された。外国人に関する様々な分野でご活躍の方々を講師としてお招きし、幅広い視野から外国人医療についての現状や課題を学ぶことが出来た。

また、最終回が東日本大震災の影響により4月9日の開催となり、講師ならびに受講生の皆様にはご迷惑をおかけすることとなってしまった。

今後は、受講者20名の定員に満たなかったことが課題として挙げられる。

- 【講師】 長谷川 祥子（長谷川事務所）
 鶴田 光子（MIC かながわ理事長・聖テレジア病院）
 佐藤 直子（難民・移住労働者問題キリスト教連絡会）
 旗手 明（(社)自由人権協会）
 松野 勝民（済生会神奈川病院）

3. プログラム検討委員会

当協会の研修事業内容の大きな見直しが10年以上されてきていないことから、平成23年度以降実施の研修事業の内容検討を目的としたプログラム検討委員会を平成21年10月に立ち上げ、引き続き平成22年度も1回/月開催した。また、会員の研修に対するニーズを把握する目的でアンケート調査も行った。

当初の予定では平成22年9月まで終了となる予定であったが、もう少し当委員会での議論の時間が必要との10月の理事会判断となり、開催期間が延長され平成23年3月まで1回/月の計12回/年開催となった。

- 【委員構成】 委員長 内藤とし子（会計部：自宅）
 副委員長 平田和広（教育部：上板橋病院）
 会計 田上明（総務部兼出版部：東京都清瀬喜望園）
 書記 上田薫（教育部：一橋病院）
 委員 高橋澄穂（社会問題対策部：森山記念病院）
 安仁屋衣子（教育部兼出版部：厚生中央病院）
 品田雄市（教育部：東京医科大学病院）
 真下敬子（教育部：南台病院）

計8名

【定款第3号事業】

3) 医療ソーシャルワークに必要な調査研究に関する事業【自主事業】

1. 医療福祉問題研究委員会

当委員会は、その目的を「社会福祉・保健・医療分野における調査・研究及びソーシャル

アクションを行うこと」と規定して活動を行っている、理事会が承認する専門部会である。
平成22年度は以下の活動を行った。

(1) 実態調査研究専門小委員会

平成22年度は「退院患者に関する実態調査」を会員向けに行った。調査対象の会員数は572名、内121名より回答があった。
現在回答の集計中であり、結果が分かり次第、調査結果を公表していく予定である。

(2) 高次機能障害専門小委員会

平成22年度は休会中であり、当年度をもって活動を終了することになった。しかし、委員だったメンバーは、今後も高次脳に関する情報を当協会に随時提供していただくこととなっている。

2. 社会問題対策部その他の活動について

(1) 教育部との共催による研修

平成22年11月19日(金)東京芸術劇場にて「チーム医療のためのコミュニケーション講座—自分を生き生きと活かすためのコミュニケーションスキルアップ—」のテーマで、IAA国際アロマニスト協会 ころのカウンセリングルーム銀座 成井尚子氏を講師に、MSWとして職場内及びMSW同士でコミュニケーションをとっていく際のスキルアップについて考えていく研修(夜間講座)を行なった。社対部部員の協力を得た。
社対部としてはこうした活動を、「ソーシャルアクションを行なっていくための方法と技術を身につけ、知識を得、実際に活動するための準備の研修」と位置付けている。

(2) 新人研修の講師への協力について

平成22年7月6日(火)に行われた、新人研修特別講習「SWと地域ネットワーク」の際、講師の依頼により、社対部理事と協力員が協力した。

【定款第4号事業】

4) 刊行物の発行等に関する事業 【自主事業】

1. 会員向けニュースレター「東京MSW」の発行(各号1, 100部)

会員相互の情報共有、新しい情報の提供を目的に年5回の発行を行った。特に、法人移行に関する情報の提供や相談会などの活動報告を積極的にを行い、協会活動を発信する媒体として機能するようつとめた。

しかしながら、年5回というスケジュールに追われ、十分な誌面の充実、新たな企画の提案などを図ることができなかった。

2. 機関誌『医療ソーシャルワーク』の発行(1, 100部)

協会機関誌である「医療ソーシャルワーク58号」の発行を行った。58号においては、今まで会員を対象とする機関誌から、今後、医療ソーシャルワーカーを目指す、あるいは社会福祉を学んでいる学生などにも購読者の対象を広げることを目的とし、装丁や内容の充実を

図った。

具体的には、装丁をA4サイズからB5サイズへ変更。内容も「各ブロック活動紹介」や、「職場紹介」、「ケーススタディ」、「学生へのメッセージ」など、会員のみならず学生等にも関心を持ってもらえるよう充実させた。

しかしながら、出版社との連携が不十分であり、誤植等が散見され多大な迷惑をかけることとなった。

現在、59号の発行に向けて作業を進めている。59号は60号記念号の前号として位置づけ、「MSWの汗・涙」といったMSWのやりがいや大変さを特集として予定している。58号の企画も踏襲しつつ、さらなる内容の充実を目指し、最終的な作業を進めている。59号は大学生協等での販売も視野に入れ、社会福祉士養成校等への働きかけも行っていく予定である。

なお、59号では協力員の募集などを行い部内の体制を整え、査読・チェック体制を改善していくよう努めたい。

3. ホームページの改善

ホームページのレイアウトの全面的な見直しを平成23年1月に行った。その後も少しずつ業者との協議を重ね、見直しを行っている。

ホームページは協会活動の情報提供や会員の情報交換の場として非常に重要な場となっているが、実際の利用のしやすさは、会員の直接の声が重要となる。そのため今後も会員の声を聞きながら定期的な見直しを行っていきたい。

